

地銀協レポート

vol. 16

2025.3.12

地方銀行とデザイン

金融経済教育



地域の顔を創る！ 地方銀行が挑むデザインの新境地

地方銀行の新しい挑戦として注目を集める「デザイン」。ここで紹介する2行は、デザインに対して一見全く異なるアプローチを取っていますが、そこには銀行と地域の未来を見据えた強い思いが込められています。それぞれの銀行がどのようにデザインを取り入れ、地域とのつながりを深めているのか、具体的な取り組みを見ていきましょう。

千葉興業銀行



千葉興業銀行公式キャラクター「ちばコーギー」。千葉興業銀行提供。



(左から)千葉興業銀行 経営企画部 広報室 調査役 宇田川 千聖 氏、営業企画部 チャンネル企画室 今野 里香 氏。



千葉興業銀行が制作したちばコーギーのグッズ。

1 銀行員がデザイナー!?

“推し” — 私たちの日常に、すっかりなじんだこの言葉。その対象は実に様々で、芸能人やスポーツ選手、YouTuberなど実在の人物を推す人もいれば、動物やお店、乗り物などが推しの人もいます。特定のキャラクターを推している、なんて方は少なくないのでは？世界中には数多くの個性的で魅力的なキャラクターが存在しますが、地方銀行も負けてはいません。公式キャラクターを採用する銀行は多く、中でも千葉興業銀行のイメージキャラクター「ちばコーギー」は、そのデザインを銀行員が、それも当時入行1年目の行員が手掛けたというから驚きです。

2 デザインに込めた思い

ちばコーギーは、同行創立70周年を記念して誕生したキャラクターで、行員とその家族から募集した作品から選ばれました。「銀行の顔になってほしいと思い、随所に銀行の要素をたくさん盛り込みました。」そう教えてくれたのは、ちばコーギーの生みの親である営業企画部の今野里香さん。名前は同行の愛称“ちばこらぎん”にかけ、銀行名を想起してもらうための工夫が凝らされています。また、お金にちなんで首からお財布を下げており、体には同行のシンボルマークであるコスモスの花が描かれています。さらに、銀行の窓口でお金や通帳などの受け渡しに使われる「カルトン」と呼ばれるトレイに載っているのも特徴的。コロナ禍に入行し、窓口にはお客さまとの間にパーティションがあるのが当たり前だった今野さんにとっては、「カルトンはお客さまと行員とを直接つないでくれる大切なもの」という思いがあったことから、イラストに取り入れたといいます。



3 銀行内をつなぐ

コーギー犬は、行動力がありながら人に寄り添う良さもあわせ持つという性格で知られています。これは、同行が目指す姿にも通じるものです。可愛らしい見た目、こうした点も相まって、行員からの人気は上々。「うちの部署でも使いたい」との声が殺到し、今ではチラシやポスター、ボールペン、クリアファイル、シール…と、あらゆるところで、ちばコーギーを目にすることができます。地域からも愛されるキャラクターになっており、熱い期待に応え、2025年2月には、ちばコーギーデザインのキャッシュカードがデビュー。「キャッシュカードを新たなデザインにするには、いろいろな部署との調整が必要です。ちばコーギーのおかげで、部署をまたいだ協力体制が強くなっていると感じますね。」（経営企画部 広報室 宇田川千聖さん）

4 ちばコーギー、新たな出会いを呼ぶ!

今や、ちばコーギーの魅力は千葉県を飛び出して、日本各地にファンを作っています。ちばコーギーのぬいぐるみが当たるプレゼントキャンペーンでは、なんと2割が県外からの応募でした。また、“犬推し”、“ゆるキャラ推し”というつながりで、ちばコーギーを好きになってくれた人もいます。さらに多くの人に、ちばコーギーを知ってほしいと、2025年2月には新たな表情やポーズのイラストが40パターン追加され、これからさらに幅広い媒体でちばコーギーが登場します。公式SNSでも活躍しており、特に公式Xではほぼ毎日、ちばコーギーのイラストや写真がアップされ、その可愛さに魅了されること間違いなし。ぜひ一度、チェックしてみたいかがでしょうか。

manordaいわて
(岩手銀行)



地域ブランド「MOYANE」の商品。manordaいわて提供。

「もりおか石割桜クッキー」のパッケージの表と裏。表の写真はMOYANEウェブサイト (<https://moyane.jp/>) より。



(左から)manordaいわて 地域ブランディング部門 アドバイザー 小笠原 一志 氏、地域商社事業部 マネージャー 幅下 貴文 氏、代表取締役 石川 恒介 氏、地域商社事業部 サブマネージャー 内藤 晶 氏、地域ブランディング部門 アドバイザー 木村 敦子 氏。

1 盛岡で見つけたおしゃれなお土産

東京から東北新幹線はやぶさで2時間と少し。到着した岩手県・盛岡駅で赤いれんがよく目立つコーナーを見つけました。売られているのは、クッキーやブラウニーに…カラフルな飴玉。個性豊かな商品が並んでいます。どの商品も共通しているのは、とても洗練されたデザインのパッケージに包まれていること。これらは、岩手銀行のグループ会社「manordaいわて株式会社」と、地元のアートディレクターたちで構成される「一般社団法人岩手アートディレクターズクラブ(岩手ADC)」が手掛ける「もりおかもみやげプロジェクト」によって誕生したブランド「MOYANE(モヤーネ)」の商品です。盛岡の魅力を再発見してもらいたいという思いで2021年に立ち上げられたプロジェクトで、合言葉は、「もりおか やっぱいいよね」。ブランド名のMOYANEも、ここから取っています。

2 パッケージ裏にも注目!

MOYANEの商品は、もともと盛岡で長年愛されてきた老舗のお菓子などが中心で、この新たなパッケージのデザインを、岩手ADCに所属する新進気鋭の若手デザイナーたちが担いました。彼らが、「もっと多くの人に魅力を伝えたい」と思う商品を見つけると、manordaいわてがそのお店に向き、交渉します。ここは、さすが昔から地元を支えてきた岩手銀行のグループ企業。地域からの絶大な信頼が大きな強みとなっています。マッチングが叶えば、デザイナー1人がそのお店に専属で付き、新たなパッケージはどんな見た目にするか、どんな素材を使うか、組み立てやすくも潰れにくい形状はどんなものか、など、試行錯誤しながら作り上げていきます。外からは見えないパッケージの裏面にもこだわり、地元の観光地やお祭りなどの情報や観光マップなどを掲載することで、余すことなく盛岡の魅力を伝えています。

3 買いたくなる工夫

さらにMOYANEでは、単に見た目のデザインを変えるだけではなく、どうしたら「誰かに贈りたく」なるかを徹底的に追及します。マーケティング調査をし、「どう売っていくか」を考え、売り場を探して調整することもmanordaいわての重要な役割。よく見るお菓子の土産物は、小分けのものがたくさん入って2,000円くらいと、なかなか気軽には購入できませんよね。MOYANEの商品は、商品1つあたりの内容量を少なめに、価格も500円前後に統一することで、そのハードルを取り払いました。現在、MOYANEで取り扱うラインナップは10商品。いずれもリブランディングが功を奏し、売上を伸ばしています。さらに、manordaいわてのアドバイザーであり、岩手ADCの事務局も務める木村 敦子さんは、「若手のデザイナーはまず、ポスターやチラシなどのデザインから任されることが多いので、こうした立体のものをデザインできるチャンスって、実はほとんどないんです」と言います。MOYANEを通して、産業とともに若手デザイナーも育ち、盛岡のデザイン力の底上げにも繋がっているのです。

4 デザインで持続可能な未来を

「デザインとイノベーションで新たな価値を生み出す」をビジョンに掲げるmanordaいわて。同社の石川 恒介代表取締役は、これらについて次のように語ってくれました。「MOYANEのようなパッケージのデザインはもちろん、地域の産業や地域そのものをデザインの手でどんどん盛り上げていきたい。若いデザイナーを含め若者が活躍できる場を創りたい。若者が働きたいと思える地域にすることができれば、本来地方銀行が目指す、持続可能な地域社会の実現に近づくのではないかと思います。」デザインが導く盛岡の未来には、無限の可能性が広がっています。

地域の顔を創る！ 地方銀行が挑むデザインの新境地 1

地域の未来を担う金融教育～みんなで「お金との付き合い方」を考えよう～ . . . 4

協会ニュース 9

— 「先輩行員の声」を読んで地元で働くことについて考えてみませんか？

— 当協会の仮移転のお知らせ

— そのメール、本当に銀行からのメールですか…？

統計グラフ 11

地域の雇用や地域産業を守るため取引先の事業承継をサポートしています



Cover photo — No.007

地方銀行会館

東京都千代田区内神田3-1-2

1961年5月に落成した地方銀行会館。全国の地方銀行とともに、戦後の激動の経済・金融史を駆け抜けてきました。貿易・為替の自由化、国際通貨危機、石油危機を契機とした深刻な景気後退、金融の自由化・国際化の急激な進展、バブル景気と崩壊、「失われた30年」、マイナス金利政策の導入と解除…こうした数々の困難を乗り越えるため、ここ地方銀行会館は、地銀界共通の経営課題を共有・議論し、時に外部に意見を発信していく舞台となりました。

地下1階、地上6階建てのビルには、会議や研修が行える大小様々な会議室が設けられ、地方銀行同士をつなぐ場になっています。ここで、金融史に残る「全国地方銀行データ通信システム」稼働に向けた画期的な構想が生まれました。これは、全国規模で銀行同士をリアルタイムに接続した世界初のネットワークで、日本の決済システムの礎です。

そんな会館も、竣工から既に60年余り。老朽化が進んだことに加え、昨今の働き方の多様化に答えきれなくなったことから、ついに建て替えることになりました。時代の変化に柔軟に対応できるような、そして、地方銀行同士の絆がさらに深められるような場として、地方銀行会館は生まれ変わって帰ってきます。新会館で、これまでも増して、地域経済の発展に貢献できるよう進化する新しい地銀協にもご期待ください。

新会館の完成は2028年夏頃の見込み。それまでは、さようなら！地方銀行会館！



①落成当時の地方銀行会館。②かつて「オリンピック協賛割増金付定期預金の抽選会」の会場となったことも。③協会職員の執務スペース。④6階大会議室。担当者から頭取に至るまで、全国の地方銀行から一斉に集まる様々な会合で使われました。

地域の未来を担う金融教育 ～みんなで「お金との付き合い方」を考えよう～

業務部 和田 海星

- 子どもから高齢者まで、お金に関する悩みは尽きないと思いますが、その悩みに向き合い、解決していくことで、自分自身そして地域社会が、より豊かになっていきます。
- 地方銀行は、お金との付き合い方に関する皆さんの悩みを少しでも解消すべく、様々な取り組みを行っています。
- 皆さんも、豊かな生活の実現に向け、お金との正しい付き合い方を身につける第一歩を踏み出してみませんか。

はじめに

小学生A「おじいちゃん、おばあちゃんがくれたお年玉、そろそろなくなってきちゃった」
 中学生B「今月は、友達に付き合ってお菓子を買い過ぎた。新作ゲームは買えそうにないな」
 大学生C「推し活の軍資金が足りない。バイトを増やさなきゃ」
 社会人D「生まれてくる子どもの名前をどうしよう。そういえば、子どもが大きくなるまでに、どのくらいお金がかかるんだろう？」
 社会人E「勤続35年、そろそろ退職だが、年金だけで足りるだろうか？」

子どもから高齢者まで、お金に関する悩みは尽きないようです。左の例では、小中学生や大学生は、過去の自分のお金の使い方を後悔しているようですし、2人の社会人も、将来に対して不安がありそうです。

このように、具体的な悩みはそれぞれ異なりますが、全てに共通するのは、「お金との付き合い方」に関する悩みであるということです。

本レポートでは、お金との付き合い方に関する皆さんの悩みを少しでも解消すべく、子どもから大人までの幅広い年齢層を対象に、様々なイベント・セミナー等を開催している地方銀行3行の取り組みを紹介します。

楽しみながらお金や金融を学ぼう！～秋田銀行「親子でチャレンジ！あきぎんワクワク探検隊」～

～親子に人気！あきぎんワクワク探検隊～

秋田銀行は、金融に関するノウハウを活用して、次の世代の育成・支援を行いたいと、2008年夏から、「親子でチャレンジ！あきぎんワクワク探検隊」（以下、あきぎんワクワク探検隊）を開催しています。お金の役割や大切さ、金融の仕組みや銀行業務等について、親子で楽しみながら学んでもらうイベントです。普段、子どもたちがなかなか足を運ぶことのない銀行を身近に感じてもらうとともに、夏休みの思い出作りの場にもなっています。

「あきぎんワクワク探検隊」の人気は年々高まっています。開催の周知と参加者の募集は、秋田銀行のウェブサイトやSNSがメインですが、募集開始前に「今年は開催するの？」という問い合わせが寄せられるほど人気で、2024年は、募集開始から約1週間で受付を終了しました。中には、秋田市外から車で1時間かけて参加してくれた親子もいたそうです。

～探検隊員として、お金や金融について楽しく学ぼう！～

この「あきぎんワクワク探検隊」ですが、2008年のスタートからしばらくは秋田銀行の本店で開催していました。そこでは、「1億円を持ち上げる」、「紙幣を手で数える（いわゆる札勘）」、「お金や銀行業務に関するチーム対抗早押しクイズ」といった企画が人気だったそうです。

2023年からは、地域に根差す地方銀行として、地元の方々にも、自行の歴史に少しでも触れてほしいと考え、旧秋田銀行本店である赤れんが郷土館で開催しています。



▲探検隊員に扮した行員が、金融クイズを出題。秋田銀行ウェブサイト (<https://www.akita-bank.co.jp/>) より。

「あきぎんワクワク探検隊」のポイントは、なんといつでも「探検隊」であるということ。進行役の2名の行員は、「隊長」と「副隊長」として、探検服を着用して会場に登場します。探検隊への入隊式から始まり、赤れんが郷土館の外観やロビー、旧頭取室、金庫室等を見学。そして、親子参加型の金融クイズ、計画的なお金の使い方を学ぶため



▲ 秋田銀行の独自ボードゲーム。秋田銀行提供。

の独自ボードゲーム等、様々なイベントを経て、解散式に至るまで、子どもたちに楽しみながらお金の金融について学んでもらいます。

銀行が実施している親子向けイベントは、小学校4年生以上が対象となっているものが多いようですが、「あきぎんワクワク探検隊」は、1～6年生を対象に、幅広い年齢の子どもたちに楽しんでもらうために様々な工夫を凝らしています。例えば、クイズ問題については、簡単すぎると高学年には退屈ですし、難しすぎると低学年には面白くなってしまいますので、難易を織り交ぜながら進めます。また、プログラムの内容も、例えば2024年は、新しくなったお札の紹介や、お金の役割に関するレクチャーを入れるなど、毎年参加者の声を踏まえた見直し・ブラッシュアップを図っているとのこと。2025年も夏に開催が予定されています。どのような企画になるのか、今から楽しみですね。

秋田市が誇る歴史的建造物 — 赤れんが郷土館

秋田市「赤れんが郷土館」は、赤れんが館・新館・収蔵庫の3つの建物から構成されています。このうちの赤れんが館は、旧秋田銀行本店として1909年に着工、1912年に完成した建物で、営業室、頭取室、金庫室、貴賓室などがありました。1981年に秋田市に寄贈・修復後、1994年に国の重要文化財に指定されています。



▲ 秋田市ウェブサイト (<https://www.city.akita.lg.jp/kan-ko/kanrenshitsu/1003617/1009785/1002316.html>) より。

全国各地で明治時代から昭和時代にかけて建築され、かつて銀行の本店や支店として使われていた歴史的建造物は、今でも多くが記念館や郷土館として大切に残されています。皆さんも、お近くの歴史的建造物を探検してみたいはいかがでしょうか？



▲ 秋田市観光・イベント情報総合サイトアキタッチ プラス (<https://www.akita-yulala.jp/see/692>) より。

～より豊かな生活の実現に向けて～

秋田銀行は、ワクワク探検隊以外にも、小中学校・高校・大学への出前授業や、高校生向け金融クイズ大会の開催、地方公共団体および地域企業の従業員向け金融セミナー等を行っています。

秋田銀行の担当者は、「小学生は、お年玉やお小遣いをもらえるようになり、徐々にお金に触れ始める時期です。そ

のような段階から、楽しみながら『お金の向き合い方』を考えてもらいたい。『あきぎんワクワク探検隊』が、そのきっかけの1つになればうれしいです。そして、子どもたちがもう少し大きくなった時に、自発的にお金の金融の知識を身につけたいと思えるような環境を作っていくために、これからも尽力していきます」と話しています。

大学と連携し、金融教育の浸透と、未来の担い手育成を行う！～横浜銀行「おかねの教室」～

～内閣府特命担当大臣賞を受賞！「はまぎん おかねの教室」～

横浜銀行は、キャッシュレス化の進展による金銭管理の重要性の高まりや、学習指導要領の改訂によって学校教育に金融教育が多く盛り込まれたこと等を踏まえ、コロナ禍で人的・社会的行動が制限される中、オンラインでの金融教育の機会を提供すべく、2020年5月、同行の金融教育プロ人財を中心に、ウェブサイトや動画コンテンツの作成に着手しました。

教育現場で利用されることを想定して、学校や教職員が使いやすい構成・内容とすることを第一の目標として作業を進め、2020年12月にできあがったのが「はまぎん おかね

の教室」 (<https://www.boy.co.jp/boy/brand/okane/index.html>) です。

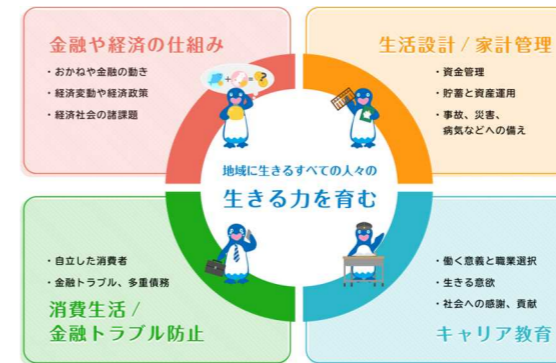
おかねの教室のウェブサイトには、子どもから大人まで幅広い世代が気軽に見られる短い動画やお金に関するクイズのほか、教職員が授業で使える指導案、ワークシート等が掲載されています。2023年には、教員が教育現場で実際に使用した結果等を基に選出される消費者教育教材資料表彰において、銀行として初めて、最優秀の内閣府特命担当大臣賞を受賞しています。

こどもも大人も、いつでもどこでも学べる！はまぎん おかねの教室

おかねの教室では、家庭でも楽しみながら金融や経済を学べるコンテンツが紹介されています。親しみやすいキャラクターが「おかねって何だろう?」、「おかねは何のために必要な? 何のために働くの?」という疑問を解説するアニメーション動画や、親子で挑戦できる年齢層別クイズ「おかねけんてい」を通じて、親子でお金

に関する基礎知識を身に付けることができます。

さらに、「おこづかいちょう」のように、毎月の収支目標の設定、お金の使い方の振り返りなどを通じて、家計管理能力を自然と身に付けられるツールも掲載されています。皆さんも、久しぶりに「おこづかいちょう」をつけてみてはいかがでしょうか？



▲ はまぎん おかねの教室 (<https://www.boy.co.jp/boy/brand/okane/index.html>) より。

～横浜国立大学と連携した「おかねの基礎教育」の実践～

横浜銀行は、2023年から、横浜国立大学で銀行独自のメソッド「おかねの基礎教育」の授業を展開していたのですが、2024年3月には、そのような取り組みを発展させるべく、同大学との間で、「金融教育に関する連携協定」を締結しました。

連携協定は、「おかねの基礎教育」の附属学校等での授業実践の習慣化、同大学の教育学部・教職大学院での金融教育の「担い手の育成」、モデル授業として県内・全国への波及を行っていくことなどを目指しています。これを踏まえ、横浜銀行は、2024年度の1年間で、同大学の大学生や

附属小中学校の生徒延べ3,150名に対して、金融教育を実施しました。

例えば、附属小中学校の授業では、動画とワークを織り交ぜながら、生徒が自身の生活を振り返りつつ、「おかねの価値」を学べるようにしています。また、教育学部の大学生向けには、金融教育の担い手育成の観点から、学校教育における金融教育の必要性等も伝えながら、「将来の先生」と「いち学生」という2つの視点で聴講してもらっています。このように金融教育の授業では、場面場面に応じて相応しい説明を行うように心がけているとのこと。



横浜銀行の金融教育の授業、評判はどう？ — 受講者アンケートから

- 金銭管理と言われると少し難しそう、まだ中学生だからと知ろうとしたことはありませんでした。ですが今回の講義で、金銭管理は思ったよりも簡単で、習慣化してしまえば苦にならないし、自分にとってプラスに動くことが分かりました。【中学校3年生】
- お金はただ増やすものではなく、「人生に寄り添う、便利な道具」という認識を持つことが重要だと思いました。また、小学生や中学生のうちからお金について学び、今後の人生をより良くするための術を知っておいてほしいと強く思い、授業にうまく取り入れられるようにしたいと考えました。【教育学部生】
- 子どもにとって少し難しいかなと勝手に大人側が思っていただけで、小学3年生でも消費、投資、浪費をしっかり理解できることが分かり、反省しました。【現役の教員】
- これからの子どもの学びは、学校だけで閉じたものではなく、実生活や社会生活を豊かにするものでなければなりません。この点は、金融教育のねらいにも共通するものがあると感じた。学校できっかけづくりの授業をして、懇談会などで保護者にも意義を伝え、家庭の取り組みに繋げていくこともできそうだった。【現役の教員】

このほか、動画や教材を使った授業の内容、先生や学生の声等は、おかねの教室「授業実践ナビ」でもご覧いただけます（<https://www.boy.co.jp/boy/brand/okane/navi/index.html>）。



▲ はまぎん おかねの教室より。

～金融教育のさらなる浸透に向けて～

横浜銀行は、横浜国立大学との連携以外にも、東京証券取引所と連携した講義や社会人向け動画等の作成、神奈川県教育委員会主催の県立高校146校への教員セミナーの実施、教員と共同した授業開発、公務員向けや地域コミュニティでのワークショップの開催などを行っています。

横浜銀行の担当者は、「当行の金融教育の取り組みが、当初想定以上に普及・拡大していて驚きもありますが、とて

もうれしいです。金融教育を受けることが当たり前の社会になれば、人々の生活も豊かになります。生活水準が向上すれば、よりよい社会に繋がっていくでしょう。われわれは、おかねの基礎教育の推進・拡充とブラッシュアップを進めることで、よりよい社会の実現に向けた手助けをしていきます」と話しています。

多くの人に金融教育の機会を！～北陸銀行「J-FLECとの共催セミナー」等～

～金融教育の受講者数2万人を実現する！～

将来を担う子どもたちや学生だけでなく、社会人向けセミナーも、全国各地で行われています。

富山県に本店を置く北陸銀行は、2022年4月～2025年3月の3年間を対象とした中期経営計画「Go forward with Our Region」において、金融経済・SDGs関連教育の受講

者数を累計2万人とする目標を掲げています。その実現に向け、北陸地域全域で、地元企業への出張セミナーや、大規模会場等での社会人向け金融セミナーを活発に開催しています。

～地銀初！金融経済教育推進機構（J-FLEC）との共催セミナー～

北陸銀行は、2024年10月、地方銀行として初めて、金融経済教育推進機構（以下、J-FLEC）との共催で社会人向け金融セミナーを開催しました。

共催セミナーの演題は、「将来に向けて知っておきたいお

金の話」。

若年層から高齢層まで幅広い年齢層を対象に、J-FLECの認定アドバイザーから、家計の現状把握、資産形成の考え方、資産寿命の延伸、相続・贈与まで、幅広い内容につい

て、資料にないエピソードを交えつつ、講演いただきました。講演時間が90分、テキストは80頁弱とボリュームが多かったこともあり、参加者の反応が不安だったとのことですが、参加者アンケートでは、「具体例を交えて話をしてくれて分かりやすかった」、「お金との向き合い方について、とても参考になった」との声が多く寄せられたとのこと。

J-FLECは、法律に基づいて設立された認可法人であり、共催セミナーでは、銀行の商品やサービスに関する説明を行うことはできませんが、北陸銀行の担当者は、「チラシでも、商品・サービスに関する説明を行わないと記載していたので、県・市の職員や教職員を含め、地元の方々は安

心して共催セミナーに参加できたのではないかとしています。



▲ 北陸銀行提供。

金融経済教育の専門組織・J-FLEC

金融経済教育推進機構（通称：J-FLEC）は、「金融サービスの提供及び利用環境の整備等に関する法律」に基づき、2024年4月に設立された認可法人です。日本銀行が事務局を務める金融広報中央委員会、全国銀行協会、日本証券業協会が発起人となり、「お金の知識をあなたの力に」をキャッチフレーズに、幅広い年齢層に向けた金融経済教育の提供や、専門家（認定アドバイ

ザー）による家計管理や生活設計、資産形成等のアドバイス等を行っています。

参考URL：<https://www.j-flec.go.jp/>



～お金について『長い目で見る』ことができるように！～

北陸銀行は、若者を含む幅広い世代に金融教育を受けてもらいたいとの思いから、ウェブサイトの改修や、職域でのセミナー、さらには、大型ショッピングモール内での「ママさん向けのマネーセミナー」の開催など、様々な企画を打ち出しています。

例えば、「ママさん向けのマネーセミナー」は、富山市の大型ショッピングモールで、託児所スタッフが子どもの面倒を見ている間、母親向けに資産形成について説明するものですが、SNS等での情報発信だけでなく、ママさん同士のネットワーク（つまり、口コミ）で評判が広がって申し込みに繋がるなど、手応えを感じているそうです。

北陸銀行は、金融リテラシーの有無・高低や、性別、年代にかかわらず、それぞれにふさわしいチャネルと方法を利用することで、なるべく多くの方に金融教育を届けたいとしています。

同行の担当者は、「例えば、手元に1万円があると想像してください。その1万円をその場限りで浪費してしまうのか、それとも、毎月コツコツと積み立てていくかによって、その人のその後の人生は変わってくるはず。長い人生、お金についても『長い目で見る』ことが大切です。そのような見方をできる人が1人でも増えるように、われわれも努力していきます」と語っています。

おわりに

全国の地方銀行は、規模の大小やお客さまの年齢層を問わず、様々なところで金融教育を行っています。今回紹介した事例は、そのごく一部に過ぎませんが、「地域の方々の暮らしを豊かにしたい。そのための手助けをしたい」という想いは、全ての地方銀行に共通しています。

過去の自分の行動を振り返り、現在の自分の状況を冷静に

見つめ、未来の自分のありたい姿を具体的に想像する。そのためにも、お金との正しい付き合い方を身につけることが重要です。地方銀行は、そのためのイベント・セミナー等をご用意して、皆さんをお待ちしています。はじめの一步、踏み出してみませんか？

こちらのレポートはいかがでしたか？ぜひ、ご意見・ご感想をお聞かせください！ ▶▶▶

クリック or



そのメール、本当に銀行からのメールですか…？

「先輩行員の声」を読んで地元で働くことについて考えてみませんか？

当協会は、地方銀行への就職を目指す学生や転職等を検討する社会人の方に向けて、現役地方銀行員からのメッセージ等を「先輩行員の声」としてウェブサイトに掲載しています (https://www.chiginkyo.or.jp/regional_banks/recruit/)。

2025年1月には、新たに2名のメッセージを追加掲載しました (これにより、現在、9行13名のメッセージをご覧いただけます)。

【新たに掲載した先輩行員の担当業務 (一例)】

- ・銀行の新たなサービスや営業推進の施策の企画・立案
- ・デジタルの力を活用したお取引先の業務改善コンサルティング

各行員の現在の業務内容のほか、地方銀行を選んだ理由や地方銀行での働きがい、今後の抱負等について、具体的なエピソードを交えた想いのこもったメッセージを掲載していますので、ぜひお読みください。

当協会は、今後とも、地方銀行の業務や働き方、魅力を発信していけるよう、掲載情報を充実してまいります。



お客様の声を大切に

新規サービスの企画や営業推進施策の立案にあたり、「サービスを利用されるお客様や現場の行員の声を取り入れた企画にする」ことが最も大事だと考えています。そのため、お客様や営業店の行員の声を聴くために、デスクで考えるだけでなく、積極的に行動することを意識しています。

また、話を伺う中で、自分が考えていたことに共感いただけることで、「自分がやっていることは誰かの役に立っている」と実感でき、企画が実現した時のことを想像してワクワクした気持ちになります。

強い信頼と影響力がある地方銀行

私は、経営コンサルティング会社、プロスポーツチーム運営会社で、経営のコンサルティングや実践のキャリアを積んだのち、新たな挑戦として2020年に伊予銀行に転職しました。

前職勤務時に企業経営者と対話する中で、地方銀行の影響力の大きさを感ずる機会が多くなりました。企業経営者に相談したいと思わせる信頼感や存在感を感じる度に、社会的インパクトが大きい地方銀行で地域社会の発展に貢献したい思いが強くなったことが、転職のきっかけでした。

自然豊かな愛媛県の魅力

私は岡山県の高校を卒業後、愛媛県の大学に進学しました。愛媛県は、どのエリアからも近く海・山があり、両方の自然を一度に楽しむことができます。また、第一次産業も盛んで柑橘類や養殖真鯛等、美味しいものも溢れています。

伊予銀行の本店が所在する松山市内中心部は、鉄道や空港、高速道路の交通アクセスが良く、移動がとても便利です。自然を体感できて生活がしやすいことは最大の魅力です。

もちろん愛媛県だけでなく、伊予銀行が営業エリアとしている瀬戸内圏域はどれも魅力的な街ばかりです。転職する前から愛とは、そのような環境で子育てをしたいと話していました。

当協会の仮移転のお知らせ

表紙コーナーでも紹介したとおり、当協会の拠点・地方銀行会館は、建て替えることになりました。これに伴って、当協会は、東京都中央区新川の東京ダイヤビルディングに仮移転しています。

新会館での業務再開は、2028年夏頃を予定しています。

<仮移転先の情報>

東京ダイヤビルディング

◆住所◆
〒104-0033
東京都中央区新川一丁目28番23号5号館5階

◆アクセス◆
東京メトロ東西線・日比谷線「茅場町駅」1a出口より徒歩8分
JR京葉線「八丁堀駅」B4出口より徒歩5分
東京メトロ日比谷線「八丁堀駅」A1出口より徒歩8分
東京メトロ半蔵門線「水天宮前駅」2番出口より徒歩12分



2025/01/30 (木) 12:05
〇〇銀行<web_info@〇〇bank.co.jp>
【重要なお知らせ】お取引内容のご確認のお願い
宛先 XXXX@gmail.com

いつも〇〇銀行をご利用いただきありがとうございます。

お客様の口座で不審なお取引が確認されたため、現在、一時的に利用を停止しております。再開手続きのために、以下のURLより、お取引内容のご確認をお願いいたします。

https://〇〇bkn.****.****.****/

ご確認をいただけない場合、セキュリティ上の観点から今後ご利用制限をさせていただきますことを予めご了承下さい。お客様にはご迷惑、ご心配をお掛けし、誠に申し訳ございません。

-----■〇〇ダイレクトで残高確認■-----
ATMに行かなくても残高をご確認いただけます。
https://www.〇〇.or.jp/****.****

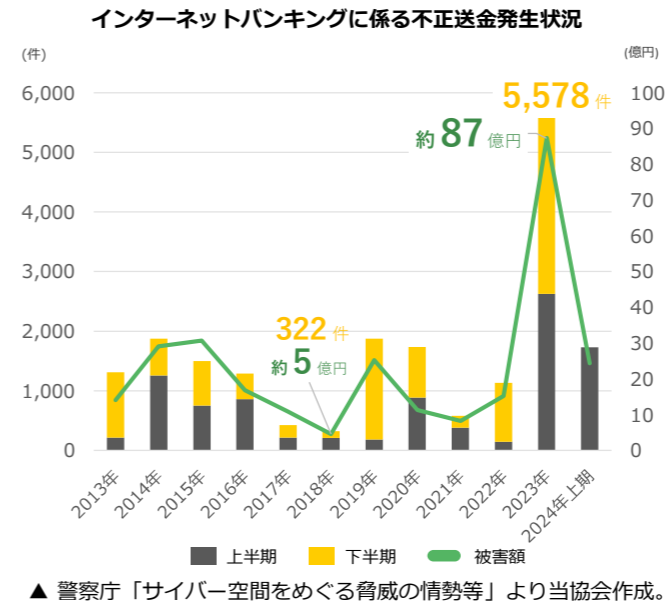
※本メールは、お届けのメールアドレスへお取引の受付をご連絡するものです (本メールの再送依頼は受け付けておりません)。
【メールの内容に身に覚えがない場合】
本メールに対するメールでの返信お問い合わせはお受けしておりません。メールの内容に身に覚えがない場合や、サービス等について詳しく知りたい場合は、当行ホームページをご覧ください。以下より電話番号を確認の上、お問い合わせください。
> https://www.〇〇.or.jp/****.****

みなさんのPCやスマートフォンには、日々色々なメールが届くと思います。そんなメールの中に、銀行からの【重要なお知らせ】があったら、きっとドキッとすることは。でも、そのメールは、本当に銀行からのメールでしょうか…？

近ごろ、右の画像のように銀行を騙ってメール等を送信し、インターネットバンキングのログイン画面を精巧に模倣した偽のサイトに誘導したうえで、お客様のID・パスワード等を不正に盗み、預金を不正に送金する事案が多発しています。警察庁が昨年9月に公表した資料によると、こうしたフィッシングと呼ばれる手口による不正送金は、2023年度における被害件数・被害額が過去最多となっており、被害件数は2022年度比で5倍弱まで増えています。

もし、このような怪しいメールが届いたら、基本的には「開封しないこと」が重要です (銀行が、メールでID・パスワード等を問い合わせることはありません)。迷惑メールフィルターの強度を上げたり、パソコンのセキュリティ対策ソフトを最新版にするといった対策も検討しましょう。

地方銀行は、これまでもお客様への注意喚起等を行ってきました。しかし、銀行の本物のメールアドレスになりすましたメールで誘導するケースが増加するなど、詐欺の手口が巧妙化し、被害は増加しています。こうした事態を踏まえ、地方銀行は、自らのメールアドレスが悪用されないよう、なりすましメールを検知する技術を導入するなどの対策も講じています。



〇〇銀行
宛先: XXXX@gmail.com
送信元表示名は偽装の可能性あり!

【重要なお知らせ】お取引内容のご確認のお願い

いつも〇〇銀行をご利用いただきありがとうございます。

お客様の口座で不審なお取引が確認されたため、現在、一時的に利用を停止しております。再開手続きのために、以下のURLより、お取引内容のご確認をお願いいたします。

https://〇〇bkn.****.****.****/

このURLは本当に銀行のもの…?

ご確認をいただけない場合、セキュリティ上の観点から今後ご利用制限をさせていただきますことを予めご了承下さい。お客様にはご迷惑、ご心配をお掛けし、誠に申し訳ございません。

-----■〇〇ダイレクトで残高確認■-----
ATMに行かなくても残高をご確認いただけます。
https://www.〇〇.or.jp/****.****

正しいURLが1つ記載されているだけで、安心しないで!

※本メールは、お届けのメールアドレスへお取引の受付をご連絡するものです (本メールの再送依頼は受け付けておりません)。

当協会では引き続き、地方銀行のフィッシング対策の高度化のため、全行勉強会等を開催し、最新の手法や対応事例の共有や各行の担当者間の意見交換等を実施してまいります。

フィッシングの被害防止対策や被害発生時の対処方法は、金融庁のサイト (https://www.fsa.go.jp/ordinary/internet-bank_2.html) 等をご参照ください。



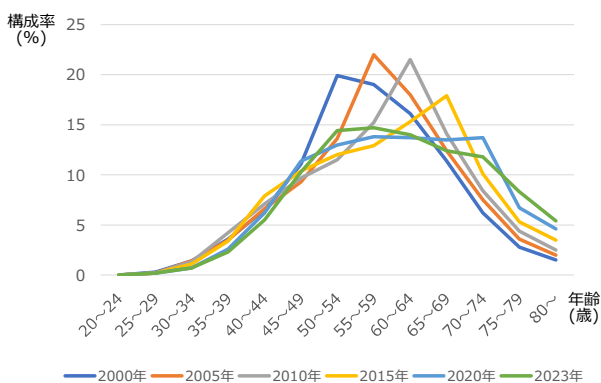
統計グラフ

地域の雇用や地域産業を守るため 取引先の事業承継をサポートしています

中小企業の経営者の高齢化が深刻化しています。2023年時点で中小企業を含む日本の企業経営者の平均年齢は63.76歳に達しており、この20年間で70歳以上の経営者の割合は約10%から約25%に増加しました。

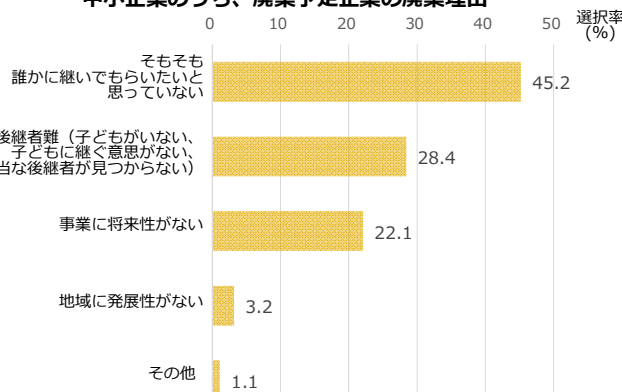
高齢化が進む中で、黒字経営であっても後継者が見つからないことを理由に廃業する中小企業も少なくありません。これらの廃業は、地方銀行にとって取引先の喪失だけでなく、地域の雇用や地域産業の衰退につながる重大な問題です。

経営者の年齢分布の変化



▲ 中小企業庁「中小企業の経営者年齢の分布」をもとに当協作成。

中小企業のうち、廃業予定企業の廃業理由

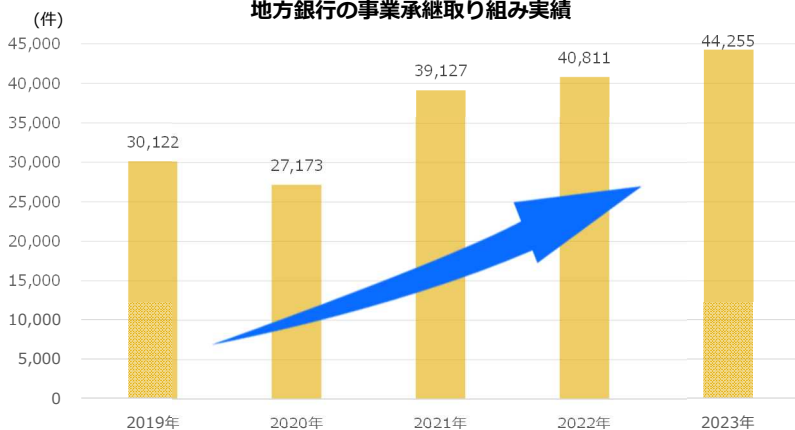


▲ 日本政策金融公庫「中小企業の事業承継に関するインターネット調査(2023年調査)結果」をもとに当協作成。

こうした状況の中、地方銀行は中小企業の事業承継支援に積極的に取り組んでいます。例えば、M&A仲介やM&Aにおける買収資金のファイナンス、経営人材のマッチング等により、経営者と後継者を結びつけるうえで、重要な役割を果たしています。

事業承継でお悩みの方は、ぜひ最寄りの地方銀行へご相談ください。

地方銀行の事業承継取り組み実績



▲ 事業承継相談、M&Aの相手先紹介、事業承継ファンドを通じた資金面の支援等の実施件数。当協会調べ。

地銀協レポート Vol.16 2025年3月12日公表

一般社団法人全国地方銀行協会

〒104-0033

東京都中央区新川一丁目28番23号 5号館5階

TEL 03-6262-8251

<https://www.chiginkyo.or.jp/>



地銀協レポートをお読みいただき
ありがとうございます。
ご意見・ご感想をお聞かせください。

地銀協公式Xでも、地銀界や会員銀行の
取り組みを紹介しています。
ぜひフォローしてください！

